

会派視察研修報告書

平成31年 2月12日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ

代表者名 神谷 悟

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加議員 3名 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	神谷 悟 ・ 杉浦 文俊 ・ 石川 輝彦
日 時	平成31年1月30日（水）～平成31年1月31日（木）
視 察 先	1月30日（水） 福岡県筑紫野市 1月31日（木） 福岡県福岡市
研 修 内 容	筑紫野市・・・家庭ごみの出し方及びごみ減量に向けた取り組みについて 福岡市・・・防災アプリ「ツナガル+」及び防災ミニブックについて
日 程	1月30日（水） 筑紫野市 13:30～15:00 1月31日（木） 福岡市 10:00～11:30
備 考	

※相手方から收受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修報告書

平成31年 2月 12日

議員氏名 杉浦 文俊

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 31年 1月 30日（水）～平成 31年 1月 31日（木）
- 2 視察先 福岡県筑紫野市、福岡県福岡市
- 3 視察の種類 市民クラブ会派視察
- 4 視察の成果等

《家庭ごみの出し方及びごみの減量に向けた取り組みについて》・福岡県筑紫野市

- ・筑紫野市の収集・分別状況は、収集は夜間（22時～4時）に行い、音が出やすいビンや缶、不燃ごみを早い時間帯に回収し、その後可燃ごみを回収している。分別状況は可燃物・粗大ごみは家の前、ビン缶や不燃物はステーションにて回収、新聞・雑誌段ボールといった資源ごみは、地域による集団回収を行い8円/kgの奨励金を交付している。
- ・筑紫野市は、近隣の福岡市が交通渋滞対策の為に夜間回収を始めと事により、昭和40年に開始した当初から夜間回収であったという。その為、若者や高齢者世帯にも浸透しており、昼間の回収を求める声もないという。さらに夜間回収の為、カラスの被害もなく、集合住宅については扉付き等のごみ置き場の義務化をし、鳥獣被害を抑える工夫をしている。また、ごみ減量リサイクル協力店制度を設け、ごみ減量に向け取り組んでいる企業には市のHP等で、PRをしている。今後の課題としては紙ごみに対し、減量化に向け検討しているという。碧南市議会においてもペーパーレス化としてICタブレット導入について検討しているが、紙ごみ問題についても考えていきたい。
- ・また、筑紫野市ではごみ処理は1600℃の熔融処理で溶かし、アスファルト等に再利用可能なスラグとセメント等に再利用可能なメタル等リサイクル可能な資源を取り出している。焼いた後の残砂が発生しない為、筑紫野市は最終処分場を持っていない。熔融炉のある熱回収施設の建設費は102億程であり、リサイクルで回収する金額は売電で1億3700万円、鉄やメタルで1億弱という。碧南市は焼却処理を行い、処分場も必要となっている。今後、安城市のクリーンセンターとで新焼却処理施設を計画する際には検討しても良いのではないかと感じる。



《防災アプリ「ツナガル+」及び防災ミニブックについて》・福岡県福岡市

- ・福岡市では、熊本地震時に無仕分けで集まる支援物資の集中、道路被害や交通渋滞、避難所からの物資要望などにより、被災地は非常に混乱した為、被災地に極力負担を生じさせない様に自己完結型支援を実施する必要がある。適切なニーズの把握、市民と連携した支援、ICTを活用した効率的支援を行う為には、車中泊といった避難者の把握、避難者の健康管理、効率的なボランティア支援といった課題もあった。その課題を解決する為に、被災者の位置や状況を行政に発信できるツールとしてSNSを活用した防災アプリツナガル+を開発した。
- ・ツナガル+では、平常時は地域の電子掲示板や野球チームといったグループを作成しての情報交換の場として使われる。災害時には近くの避難所を地図上で表示し、避難場所が分かるようにし、アプリを通じて行政へ支援要請を行うことができる。被災者はアプリをダウンロードすれば、自分が何処にいるのか登録でき、また他の避難所の状況、行政からのメッセージを確認することができる為、現状を把握することができる。また行政では、被災してない方に対し、支援物資の募集において品目と受け入れ場所の指定を行い発信する事で、避難所では現状必要としているものを要請し、一部地域に支援が偏ったり、不必要なものが送られ場所をとる事を減らす事ができる
- ・防災ミニブックは東日本大震災時に小さな子供を持った母親の体験を基に作られ、家庭でできる準備・地域との交流・避難所づくり等、漫画風に描かれており、非常に読みやすく、女性の視点を活かした作りとなっている。1万部発行したが、好評につき3万5千部まで増刷している。背景として、福岡市男女共同参画基本計画に6つの重点項目の一つである、地域における男女共同参画の推進として作成された。地域における男女共同参画の視点に立った地域防災推進を取り入れる目的として、防災ミニブックが活用されている。地域の防災部と連携して女性目線での意見を取り入れたり、女性の参加意識は高まるなど効果を出しているが、全てにおいて意見が通るのは難しく、避難所運営など地域とで差があるため、今後も協議を重ねる必要があるという。今後の課題としては働く男性に対してのPRや気付いた後に実行してもらう様にデモンストレーションをし、身になる活動を心掛けている。
- ・碧南市においても、いつ起こるか分からない震災に対し、家庭の中で被災する確率は女性の方が高いと思われる。その時に意識が高い事で、非常時にも落ち着いた行動が出来る様になる。また常日頃から目を向ける事で、通学路で危ない所をチェックするなど、地域の輪も広がることになる。近隣市では知立市でママ達による活動が広がっているの、踏まえ碧南市においても参考にしていきたい。また、このような活動をツナガル+に情報交換の場として提供する事で、意識向上にもつながる。ツナガル+は震災時に情報がない事が支援を遅らせたり、不安や混乱の基となる為、市民と行政の連絡網としては最適であるが、SNSを使うとなると災害時に機能するか、電波障害になった時に碧南市に移動基地の電波が届くかといった不安要素も感じられる。今後の研究材料にしていきたい。



視察研修成果報告書

平成31年 2月12日

議員氏名 石川輝彦

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成31年1月30日（水）～平成31年1月31日（木）
- 2 視察先 福岡県筑紫野市・福岡県福岡市
- 3 視察の種類 会派視察（市民クラブ）
- 4 視察の成果等

【筑紫野市・・・家庭ごみの出し方及びごみ減量に向けた取り組みについて】

- ・家庭ごみの夜間収集の実態と店舗のごみ減量に向けた取り組みについて調査した。
- ・まず筑紫野市役所は、今年1月4日に移転し新庁舎となり、第1号の行政視察とのことであり、受け入れをしていただいた筑紫野市議会の皆さんに感謝申し上げます。
- ・筑紫野市のごみの現状として、ごみ処理実態では人口が増加している今でも、処理量は年々減少しており、資源ごみの回収量も減少している。ごみの減量策としては、市民と事業者、行政が協働でごみの減量化に対する啓発活動を行っている「筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会」の取り組み、町内会や子ども会などに対する「資源ごみ集団回収奨励金制度」、また多量にごみを排出する事業者に対する減量計画書の提出の義務付け、さらに行政として回収するごみについては平成5年度から有料化とするなど、多くの事業を展開し、実績に結び付けている。
- ・ごみの収集では、可燃物と粗大ごみについては戸別で収集、ビン・缶・ペットボトル・不燃物はステーション収集で、それぞれ分別し指定（有料）のごみ袋に入れて、指定された曜日の夕方から夜10時までに出すこととなっており、収集も夜間となっている。また、白色トレイや紙パック、紙製容器は市内35ヶ所のリサイクルボックス、乾電池は市内124ヶ所の回収ボックスに随時収集可能となっている。集団回収が可能となっている新聞、雑誌、段ボール、古布は行政としては一切回収せず、全て集団回収団体に任せている。
- ・ごみの夜間収集は、昭和40年代にごみの収集が始まった時点から、昭和36年ごろから福岡市が交通渋滞対策として夜間収集を始めた例に倣い夜間収集を行っており、筑紫野市では一般的な制度となっている。夜間にごみ出しをすることから、カラス被害はなく、猫被害は出ているようだが行政に苦情として訴える人はいないとのことである。
- ・筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会は、平成18年2月に設立され取り組まれている。現在、市民団体21団体、官公庁8団体、事業者団体11団体、事業所31団体の71団体で構成され、年2回のチラシの作成・回覧、フリーマーケットや環境フェア等の開催、ごみ減量・リサイクル協力店やエコ飲食の認定等に取り組んでいる。



- ・ごみを処理する施設は、2市1町で構成するクリーンヒル宝満で行っており、資源循環型のまちづくりをめざし、平成20年度より新施設として稼働している。可燃ごみは1600℃の高温で溶解し、熔融物のスラグやメタルを再資源化し、廃棄物をゼロとして取り組んでおり、またその処理で発生した熱は新エネルギーとして活用している。
- ◇ごみの減量や鳥獣対策がなかなか進まない碧南市において、調査研究し、検討実施する事例が多くあると考える。また当面は長寿命化を目指す衣浦衛生組合クリーンセンターにおいても建替時期（広域時期）と同時に廃棄物ゼロ化を目指す必要があると考える。今後、多くの先進自治体を研究し、更なる提言に結び付けていきたい。

【福岡市・・・防災アプリ「ツナガル+」及び防災ミニブックについて】

- ・平時は情報交換ツールとしても活用でき、有事には災害時モードに切り替わる防災アプリを調査するとともに、女性の視点を取り込んだ防災に対する取り組みを調査した。
 - ・防災ミニブックは、働く女性の活躍推進として「男女共同参画」の一つとして、防災担当部署と相談しながら、取り組まれている。
 - ・東日本大震災では、女性ならではの不安や困難がたくさんあり、内閣府から打ち出された「男女共同参画の視点から防災・復興の取組指針」により「女性の視点を活かした防災ミニブック」を東日本大震災での被災者でもあり、イラストレーター、防災士でもある「アベナオミ」さん監修の下、作成されている。
 - ・内容は、震災発生時にアベさんが体験された内容がマンガで始まり、震災時の避難行動や役立つ防災グッズ、災害時のお助けアイデア等が写真やイラスト共に記載されており、女性の視点ならではの防災ブックとなっている。
 - ・発刊当初は紙で配布していたが、平成29年度からはHP等で無料配信している。またP領ポスターやチラシを作成し、乳幼児健診やイベント等で掲示・配布している。
 - ・出前講座やワークショップを開催し、さらには商業施設でもブース出展等を行っており、子ども達でも理解していただけるよう、紙芝居にして取り組んでいる。
 - ・防災アプリ「ツナガル+」では、熊本地震での支援の円滑化に対し、被災地に極力負担を生じさせない「自己完結型支援」を目指したことが発端であり、SNSを活用した市民連携やICTを活用した効率的な支援を目指したものであると同時に、日本財団による「BOUS AI X TECH」に参加し、防災アプリの開発に繋がったとのことである。
 - ・福岡市の開発した「ツナガル+」は、平常時は地域の電子掲示板としてグループが作成でき、災害時にはそのアプリが自動で災害モードに切り替わるもので、避難所表示や行政に対する情報発信ができるものである。また自由にグループ作成ができることから、指定外避難所とのコミュニケーションが取れ、行政としても市民の避難先が把握できる仕組みとなっている。
- ◇被災者・避難者の半数は女性であり、また2次産業で働く方が多い碧南市においては、女性の視点での防災減災対策は必須であり、今後、更なる減災対策を進める上で、女性の参画をどのように拡大させていくかが課題であると考えます。
- また、被災時の避難所運営は、そこに避難した方々が運営していくことから、行政と避難者とのパイプをどのように強化していくかが課題であり、多くの市民が持つスマホを活用したアプリの利用も検討していく必要があると考えます。



視察研修成果報告書

平成31年 2月 12日

議員氏名 神谷 悟

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

1 期間

- ・平成 31年 1月30日（水）～ 1月31日（木）

2 視察先

- ・福岡県筑紫野市（家庭ごみの出し方及びごみ減量に向けた取り組みについて）
- ・福岡県福岡市（防災アプリ「ツナガル+」及び防災ミニブックについて）

3 視察の種類

- ・市民クラブ行政視察（会派）

4 視察の成果等

★目的

○私たち市民クラブは上記の日程で会派行政視察を実施させていただきました。筑紫野市においては、ごみ出し・ごみの減量化に向けての取り組み等、先進地事例を学び、福岡市では、防災・減災の取り組みとして、ラインアプリを活用した情報発信ツールと女性の観点から見た防災ミニブックの作成及び目的について、今後、本市においても横展開できる施策であるかを重点に研修をさせていただきました。

◆テーマ：家庭ごみの出し方及びごみ減量に向けた取り組みについて（1日目筑紫野市）

○特長①→回収方法

- ・収集は、夜間（午後10時よりおよそ午前4時まで）に実施している
（早い時間帯は音が出やすいビン・缶・不燃ごみを集積場所にて回収し、その後、

各家庭ごみを回り可燃ごみを収集する方法であった。)

○特長②→回収方法

- ・新聞、雑誌、段ボール、古布については、町内会及び社会教育団体（子供会など）が、集団回収を実施（1kgにつき8円の奨励金を交付）

○特長③→減量の取り組み

- ・筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会を設立
（市長、事業者、行政が協働でごみの減量に関する啓発を行う団体として取り組みを実施）

【筑紫野市視察の様子】



[所感]

昭和40年代に、近隣市が交通渋滞対策のため夜間の収集を導入し、それに伴い筑紫野市も開始したようです。そして、夕方から夜の10時までにごみを出すルールとしているため、カラスに狙われにくいことなどメリットも大きいと感じました。気になることは、作業者の人件費が夜間に作業をしていただくため、高額になるのではないかと思います。碧南市のようにネットを配布し、カラス対策をする経費やネットが路上に置いてある景観も考え、今後どのようにしていくべきかを検討することが重要であると考えます。

ごみ減量の取り組みについては、市民、事業者、行政の3つの主体が一体となって、継続的に協議を行いながら、循環型社会形成に向けて手と手を取り合っていく取り組みは全国でもあまり例のないように感じました。碧南市においてはごみの減量化については、成果が出ていないためこのような組織づくりも必要であると考えます。

◆テーマ：防災アプリ「ツナガル+」及び防災ミニブックについて（2日目福岡市）

○福岡市防災アプリ「ツナガル+」の概要

- ・平常時は、地域の電子掲示板、グループを作成して情報交換
- ・災害時は、近くの避難所を地図上で表示し、アプリを通じて行政へ支援要請

【福岡市視察の様子】



○防災アプリ開発の理由

- ・熊本地震では、公民館や小学校などの避難のほか、在宅避難や車中泊など多様な避難が発生した。その結果、被災者の状況把握や情報提供、物資支援など生活支援に支障を来した。



○対策

- ・被災者の位置や状況を行政に向けて発信できるツールとして、防災アプリを開発

【防災ミニブック】

○防災ミニブックの概要（背景）

- ・災害時には女性ならではの不安や困難があり、男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針が内閣府から出され、今回、「女性の視点を活かした防災ミニブック」を作成



○防災ミニブックの取り組み

- ・女子学生、子育て家庭を対象にワークショップ開催
- ・地域への出前講座、子どもプラザ等で講座を実施（10箇所紙芝居方式）

[所感]

福岡市は熊本地震の際、被災地に職員を派遣し、その経験から課題となった災害時における指定外避難所の把握などに対応できる防災アプリを開発。平常時は自治会や地域サークルなどで情報交換ツールとして活用でき、有事には災害モードに切り替わるため、碧南市のいろいろな組織に対し、普及すると良いと感じました。

防災ミニブックについては、災害時の避難生活では女性特有の困りごとなどをまとめ、準備しておくことで軽減できることを伝える本となっており、碧南市においても作成し、横展開するべきであると感じました。

今回の研修、本当にありがとうございました。

神谷 悟